

# 函館電子新聞 PDFニュース特番

## 「デキレースと言われても仕方がない」 ストーリーが出来上がっていたとの認識示す

西尾前助役が議長として采配ふるった、平成18年度分として4社に認可した市議介在・口利き、業者癒着の介護付き有料老人ホーム選定に係わった有識者会議の委員語る

西尾前助役の結果責任重大で、口利き・談合・癒着を甘受し、市議の口利きなどを日常茶飯事に横行させ、不透明な市福祉行政を助長！

「西尾氏に公平・公正を語る資格は全くない」

発売中のNEW現代函館・春季号で「西尾（正範）前助役には福祉担当の事務方最高責任者として極めて重大な結果責任がある。（助役在任中）西尾助役室で頻繁に、市議もしくは市議が連れてきた業者などとの間で談合が行われていた。事例はいくらでもある」、また「：話は全く逆で、福祉担当助役として不正？談合・口利きに手を貸し、関係してきたのは西尾と福祉部そのものである」などの本紙見解を示したが、その一例として上げた函館電子新聞・平成18年8月16日付の「介護付有料老人ホーム提供事業者に管外業者3社と地元業者1社を選定し評価点数方式導入するも選定基準、配点方法など秘密し選定された管外業者、市議との関係等取り沙汰され、デキレースの臭い？云々」

の報道に対して、函館市福祉部から依頼されて選定に係わった有識者会議の委員6人（議長は

西尾前助役で、6人の委員は外部）の1人が13日までに、本紙に対して、「あの業者選定は指摘さ



デキレースの組み立てや不正福祉行政の辻褄合わせなどに熱中している岡田芳樹福祉部長（右）と川崎真一同部次長（左）

れたようにデキレースと言われても仕方がないものであった。6人のうち福祉・介護施設に関して詳しいのは一人（函館大妻高校関係者）だけで、あとは知らない人ばかり。福祉部は業者を決める有識者会議のわずか2〜3日前に、われわれ委員のところへ山積みになるほどの審査資料を持ってきてこれでお願ひしますということであった。とても山ほどの審査資料を短時間で読み切り、理解できるものではなかった。加えて、すでに審議する前に福祉部が（評価）点数を付けて持ってきており、どうこう言えるものでもなかった。われわれ委員としても今後このようなことがないように反省しなければならぬ」と事実上デキレースでストーリーは出来上がったとの認識を明らかにした。

◆ ◆ ◆  
このことは「有識者会議を持って決定したもので問題ない」などと言ひ逃れ、強弁している西尾前助役の事務方福祉担当最高責任者並びに同有識者会議議長としての責任が重大であることを端的に示すもので、市議員が介在し、口利きの4社を優先して認可すべく、福祉の許認可の中身を全然知らない人ばかりを集めた形だけの有識者会議を設けて、いかにも公平、公正に審査したかの如くを装

# 函館電子新聞 PDFニュース特番

(2)

い、福祉部幹部と結託して口利き・談合を容認して通した実態を色濃くにじませている。

◆ ◆ ◆  
これもN EW現代函館・春季号で言及しているところであるが、「デキレースの臭い？」と本紙が報道したとたん、地元でただ1社、それも破格の定員100名（介護付き有料老人ホーム）としてはこれまでの最多定員）の申請を便宜を図る格好（闇取引）で受け入れ、また西尾前助役が最終決済（担当助役）の市立函館保健所管轄のグループホーム許認可（平成17年度駆け込み申請）に関しても、入所定員18人を何と4力所一気に全部を市立保健所が認めた地元業者は本紙主幹に対して、時季外れのお中元を贈り付け、突っ返された事実関係も歴然としており、違法行為を取り上げられ、ばれたら大変なことになるとして、その阻止を狙ったものがあった。

◆ ◆ ◆  
この地元業者の傍若無人ともいえる物や金（？）を露骨に配つての議員、市福祉部ら関係機関幹部らへの「懐柔・買収？」工作は知る人ぞ知るところで、とかくの噂が耐えない。

密主義で、闇に包まれているばかりか、西尾氏自らが「議員は市民の代表で、いろんな団体、企業、個人がバックにいる。議員はその人の代弁者であり、市役所に紹介したり、願いを言ったりすること自体悪いことではない」（同氏サイドのブログの中で）などの考えのもと、みそもくも一緒にして談合・癒着を容認し、口利き・談合話を持ち込む市議と酒を酌み交わす（事例は沢山ある）などして自らも染まっ不正に手を貸し、談合・癒着を大きく繁殖させてきたことが幾つもの事例から明らかになっている。

◆ ◆ ◆  
まして、平成18年度分として西尾前助役が有識者会議の議長として采配を振るい認可した、市議介在・業者癒着の4社に関しては「議員が代弁者云々」という生やさしいたぐいのものでは決してない。

◆ ◆ ◆  
西尾前助役は市長から一任を受けた事務方福祉担当責任者―有識者会議議長として市議介在・口利きの意向を甘受した、言うならば共同責任大有りとみられても仕方がないデキレースであり、結果責任は重大である。結果的に道具に使われた有識者会議の委員6人こそいい迷惑であったといえよう。

◆ ◆ ◆  
この意味で、西尾前助役は、井上市政の福祉行政に関して、例

えば情報公開を詰め先の先ほども進めることなく、いわんや改善、改革し、発展させた形勢は皆無で、議員の口利きを日常茶飯事に横行させ、不透明極まりない福祉部の旧態依然の古き悪しき体質を助長させた。「西尾氏に公平・公正を語る資格は全くない」（市幹部）と指摘されている。

◆ ◆ ◆  
ときに、昨年4月に環境部長から全く福祉行政を知らずして西尾人事（西尾一派）で就任した岡田芳樹福祉部長、及び川崎真一部次長にあつては、前記の平成18年度分の介護付有料老人ホームの市議口利き・介在の4社認可のデキレースの組み立て、またH社（現在の事業経営を考慮し、今後このように表記する）の介護付き有料老人ホームの不当な申請排除に係わる一連の辻褄合わせ、口裏合わせ工作の奔走（同部佐々木健裕次長も同様）、等々に血眼になってきた経緯があり、本筋の福祉行政の正常な運営を図るどころか、市議介在・談合や部内古株幹部と業者との癒着を正当化すべく熱を上げてきた実態が浮き彫りになっている。

◆ ◆ ◆  
岡田部長の辻褄合わせ行政は3年前に西尾人事で環境部長に起用され、三和産廃不法廃棄事件の後始末でも披瀝したところであり、「岡田の特技はこれに尽きる」（庁内談）と評されている。

また、川崎次長などは福祉行政など全くちんぷんかんぷんで、西尾前助役や岡田部長に言われるがまま、自分たちの不正行為を正当化するためのデータメな内部メモ作成等に熱中してきているだけではないかとの話になっている。

◆ ◆ ◆  
そして、西尾氏辞職後の最近では市福祉部職員が西尾氏関連の誹謗・中傷専門のブログに真つ昼間からろくに仕事もせず、西尾氏代弁の如くブログの書き込みで熱中している状況にもあり（事情通談）、部下の管理・監督を完全に放棄し、怠っているなど、幹部失格といわれる様相にある。

◆ ◆ ◆  
部内からは極秘扱いの文書が外部に意図的に流され、部責任者としてこれを容認している様子にもあるとされ、庁内外から「これは重大な守秘義務違反になるのではないか。一体どうなっているのか」との強い批判の声も上がっている。

◆ ◆ ◆  
庁内外からは「今やますます、市福祉部は狂いに狂っている」といわれている。西尾前助役サイドと連携し、今日までの不正な行政を正当化することに躍起になっている西尾一派の排除、市議と業者癒着の古株幹部の更迭、幹部・中堅人事を含めた組織の総見直し等々なくして、風通しのいい正常な福祉行政運営は望めないだろう。